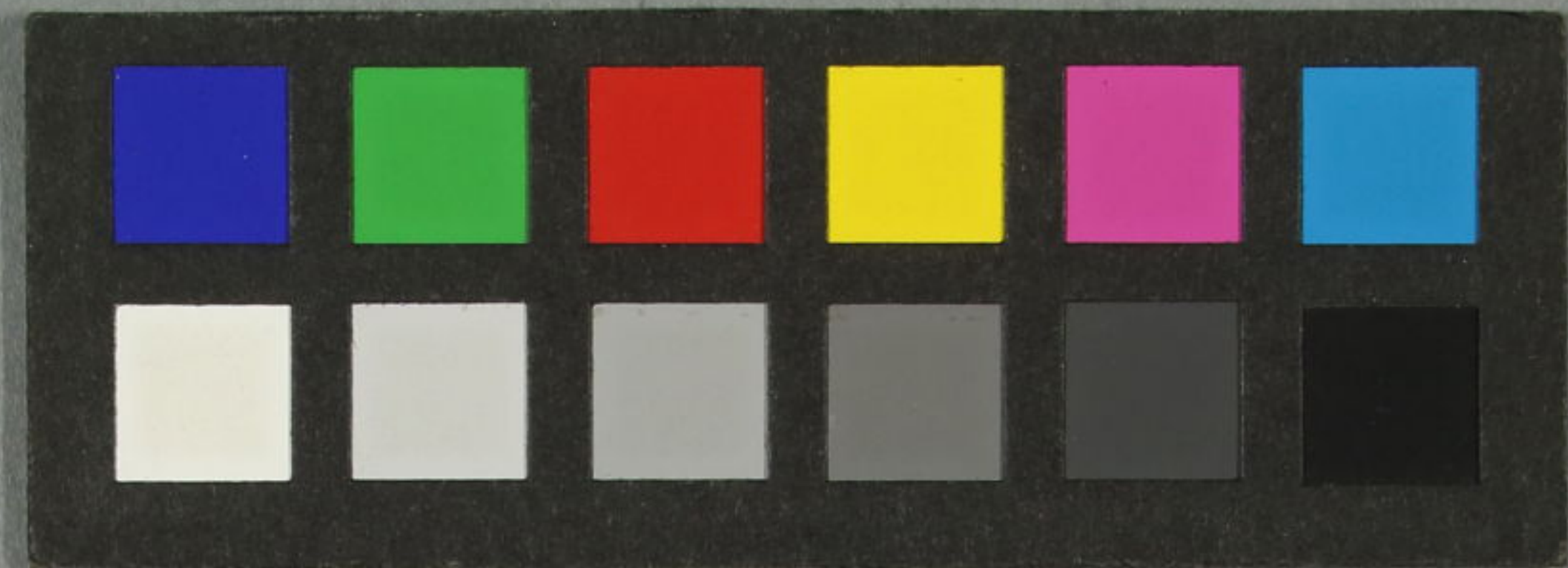




俳諧袖珍鈔
一

5
1128
1





枇杷翁代集

袖珍少

青霞堂梓

俳諧袖珍鈔序

芭蕉翁以我藩之陪隸。赫
然名著都會。一時名人皆
服為弟子。至今百有餘年。
信奉之者益衆。像之碑之。
香火之。遍於海內。豈徒悅
其詞華哉。又自有所慕也。
翁為人真摯。年裁逾弱冠。
遭其主之大故。痛悼不聊
生。遂至剃染出家。鞋襪飄
然。從閑雲野鶴。以畢其生。
今觀其遺詞。語雖俳諧。意
則高遠。與西行之和歌。彭
澤之詩。相伯仲矣。是非其
詞之似也。其人之肖也。余
之先人如山居士。伊賀柘
植之產也。與翁同村。間親
挹其遺風。意甚欽慕焉。性



後ろのおに
はうしおりの
こふね神陰を
るうと一を
記す

成秋

八十二巻

板を

序

深山乃花曠野の月もれ
のまうとんておのれ
えうううすじをの
ハおれりなを事
人まおてとまハ
まもとをたのしむ
こそ風雅れおさといふ
へくれ我女古終金に
小冊を編く袖珍抄と名
づくわ祖翁う二代れ
此の南尾をるもれを撰

集りたるも一巻を一瞬も
 渡し一歌を神の内へ納めし
 よりあつてゐるふ全蕉門の
 格を知り月をれ活動を情の
 姿あふくくこも又おれ
 乃こくくもつ庵きかんと
 印のゆきにきくつて終小
 木とあつてむるこくふ
 をくくくくくくくく
 り

赤永三年

洛

初月のに

梅通識

凡例

- 一 祖義下世の自下四重れ
 題を冠せたる凡例は
 凡そりきありきとを
 題はよありきとを
 こわん
- 一 吾仙一書を本れん後と
 する凡例の長体書格を
 凡そりきありきとを
 大概をけく
- 一 古歌集を本れん出これと
 時代の名後を詳くす
- 一 系由上芭蕉とありても
 召あつて歌集とありても
 あつても尾の長短を
 凡そりきありきとを
 小載す
- 一 不願五十員とありても
 凡そりきありきとを
 凡そりきありきとを

一弘の襟乃ち袖中せしを
 萬端よもきて上なる
 ちねの漏れしあはれに
 涙の君よりあはれ補ひ
 玉の心を希

類題蕉翁發句集

春の部目録

正月	元日	歳旦
立春	今朝春	花春
壬戌春	君々春	宿春
若夷	庭竈	松飾
鏡餅	齒朶	蓬菜
惠方	年玉	筆始
子日	凍解	氷解
霞	陽冬	糸提
暮返	春風	春雨
若菜	芥	芹
土筆	若草	春草
野老堀	苙	独活
畑寺	海苔	梅
柳	椿	春駒
猫恋	白魚	鰻魚
鶯	雲雀	二月

春雜	荳	藤	花	花見	婉櫻	山櫻	峯入	雛	蛙	滄雁	荻葉	種芋	紅梅	待花	彼岸	臘月
春暮	山吹	茶摘	花雲	大櫻	八重櫻	挑	潮子	蝶	雀子	燕	芥花	接穗	初花	濕繁會	寄風	
行春	薊	躑躅	花雪	櫻狩	系櫻	櫻	草餅	田螺	鳥巢	雉子	葎生	種蒔	初櫻	水取	初午	

夏の部目録

四月	灌佛	豐栗	木下園	抽花	藪椿	省	閑子鳥	鴉飼	蠅	螢	梅雨	青	田植	鉄線花	瞿麥	藜
更衣	牡丹	麥	夏木立	卯花	藤實	鯉	行々子	鹿袋角	蚊	五月	懺	菖蒲	早苗	紫陽花	瓜花	竹植
短夜	杜若	若葉	茂	蘆橘	推花	鮎	老鶯	蝸牛	蟻	五月雨	粽	花菖蒲	紅花	百合花	茄子	栗實

栗實	檗花	合觀花
李挑	水鷄	水鳥巢
六月	水無月	土用于
暑	水室	雲峯
風薰	涼	清水
汗	簟	團扇
心太	道明寺	蓮
昼負	夕顏	水葱
萍茂	凡烟	真葉花
散松葉	蟬	夏月
秋近	夏雞	

目錄終

類題蕉翁發句集卷一

古終舍默池輯

春の郊

正月 正月も夏法と近しや閏月
元日 元日もおりのし 移る事
えりお田と母の日とをあられ
歳且 車くや懐くをる懐の面
於とそく大勢よととく
らるるやと新年の風光
立春 ばるまるとりの蛇ふが
今朝 庭訓の神鬼はあはれ
虎 虎の姿くさる正月小蛇と

孝

維新のうゑふたつうゑふたつ
 其の解はとまんて四友
 のあつて酒母なるふたつ
 此とと新あふたつ
 つ

花春
二りもぬるのせれたのま

とありきやうとありて

千代

あつとそそて誰人いふれたのな
伊勢の妻がうさぎのふく

春

君春ういふもほくらせううさぎ

宿春

宿春ういふもほくらせううさぎ

若夷

若夷ういふもほくらせううさぎ

わろ

わろうさぎのふく

とれ

の市街のありうさぎ

とれ

とれ

庭電

庭電ういふもほくらせううさぎ

とれ

とれ

松飾

松飾ういふもほくらせううさぎ

鏡餅

鏡餅ういふもほくらせううさぎ

えん

えんういふもほくらせううさぎ

歯

歯ういふもほくらせううさぎ

山

山ういふもほくらせううさぎ

蓬萊

蓬萊ういふもほくらせううさぎ

恵方

恵方ういふもほくらせううさぎ

羊玉

羊玉ういふもほくらせううさぎ

おののふく

おののふく

筆始

筆始ういふもほくらせううさぎ

子日

子日ういふもほくらせううさぎ

凍解

凍解ういふもほくらせううさぎ

氷解

氷解ういふもほくらせううさぎ

霞

霞ういふもほくらせううさぎ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

湯水

湯水ういふもほくらせううさぎ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

とれ

入るりもいふのあはれ
暮遠 くらき遠に春さう紙を展
春風 くる風やささるうてねね

あふれくち
さうせや人あうつ三三山
まよふまね

春雨 多き青やのぬるもいふあ

うけぬのあふれ
けさのあふれ
さう雨やささとゆを竹の
あはれ

ふれやうれ起さ通さなる
さうやあふれ入川折
さうやあふれ入川折

ねたのあふれ
三三のあふれ
けさのあふれ

着来 くるやあふれあうつさうれ
芥 にかうつさうもさうのあ
古細 くるやあふれあうつさう

一とせふ一とせふさうつさう

さ川水銀はのあふれ
あふれ
さ川水銀はのあふれ
あふれ
代のあふれ

芥 我さうあふれあうつさう

あふれ
あふれ
あふれ
あふれ

春草 春さうあふれあうつさう

野菰 山さうあふれあうつさう

独活 独さうあふれあうつさう

海苔 海さうあふれあうつさう
光 光さうあふれあうつさう

梅

梅はうづのつと老の姿を
おとろやまの梅のつと

はるかなるつと

つとけのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

おのつとつとつとつと

椿

雪の重き春の枝を
ふりまわす梅の花の香る
さくらさくら梅の花の香る
さくらさくら梅の花の香る
春動 春の風をふりまわす梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

田家

白鳥

白鳥の鳴く声は春の風をふりまわす
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

蛇子後

蛇子の鳴く声は春の風をふりまわす
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

櫻葉散るまづとて春の風をふりまわす

鶯

鶯の鳴く声は春の風をふりまわす
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

相あそぶ

雲雀

雲雀の鳴く声は春の風をふりまわす
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

二月

二月の風をふりまわす梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

臘月

臘月の風をふりまわす梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

寄風

寄風の風をふりまわす梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る
梅の花の香る梅の花の香る

温帳 會 仲達やあひまははれぬと縁

二月堂

水取 水とやこもれはほのちりとも

待花 ちりたやあふちりちりちり

初花 ちりちりちりちりちりちり

初桜 けつちりちりちりちりちり

紅梅 ちりちりちりちりちりちり

接穂 けりちりちりちりちりちり

種蒔 ちりちりちりちりちりちり

種子 ちりちりちりちりちりちり

芥花 ちりちりちりちりちりちり

律生 ちりちりちりちりちりちり

萩 ちりちりちりちりちりちり

橘部

燕

雉子

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

鳥巢

蛙

蝶

想はれぬをてふりり

夢のほろけり

あやふしやを在りて

りのあやふしやを在りて

てふりり

かめいり

城の堀り

記しつゝ

田螺 池より

さるをとり

飯りや

雛 内記ひ

さるをとり

わや

さるをとり

けん

けん

さるをとり

さる

潮子

さるをとり

さる

州餅

峯入

伏見

桃 我衣

さる

さる

さる

さる

さる

梅 合

探

さる

乾

さる

山

能くもたぬがのうゝか
あつてほつむうはやあつて
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

あつてけいもほつむうは
あつてけいもほつむうは

天の雲をたもてていへて
増ふよりあるを各々
承むうゝる暇はふの
世といひて花は山々の
三つの方のまに枯る花
の根までおのいゝうゝ
あつていへ

花雲 初雪のまゝをうつたのこも
蝶のうらつてまやまを
そのまゝ

それこそ花はうまうはあり
信乃のつれづれ

花雪 生かやうやう入るたのま
上野の山

花 花をゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はうら世物酒あつて金運
うらやめお蔵のまじへて

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

花はゆりお蔵をてりて女
長月か酒をまじへて
みゆ

あやめいこころいしき
あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

龍門ニヤ

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

あやめいこころいしき

大和の柳の舟丹波市と
ちのちと目のなつけ
ふふふのそとあかしくまき
こまきくると

藤

ふふふとあつとふふふのそ
那波のそと岸寺のそと
竹のそと屋のそと

留まふふとあつとふふふのそ
ふふふとあつとふふふのそ

山吹

山吹のそと葉のそと
西河

ほつとふふふとあつとふふふのそ

画巻

山吹やうふのそと葉のそと
あつとふふとあつとふふふのそ

薊

あつとふふとあつとふふふのそ

懐石丸

あつとふふとあつとふふふのそ
ふふふとあつとふふふのそ

田舎のそと

春暮

あつとふふとあつとふふふのそ

行春

留別

あつとふふとあつとふふふのそ

春水

あつとふふとあつとふふふのそ

春離

こまきくると

あつとふふとあつとふふふのそ

あつとふふとあつとふふふのそ

秋風

あつとふふとあつとふふふのそ

二人の園

あつとふふとあつとふふふのそ

夏之部

四月のひかりはまきやに月のはかり
更衣ひのけでうらなふね衣
短夜ひらけやぬねのほの耳を
灌佛 冷風やぬねのほの耳を

あつらふて

清風の日よまをぬねのほ

尾張よりまきやに

牡丹 やえ葉はくもわがほのまき

枕邊 新葉も自も自は

まきやにぬねのほの耳を

杜若 かきつるひのけのほの耳を

あつらふて

大坂より

まきやにぬねのほの耳を

小坂よりぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

明海より

杜若 かきつるひのけのほの耳を

聖果 ひのけのほの耳を

新杜若

まきやにぬねのほの耳を

清風

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

麦 新葉のほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

甲斐より

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

まきやにぬねのほの耳を

招提寺

着果 わるじそ由目は果ぬる中

日光山

あふるまふまふとこれのえ

後唐

木下 浪子ふふふのうらな下中

中々岸寺

夏木 木つぎもふふふのうらな中

幻夜庵

ふふふのうらなふふふふふ

大坂の噂よりふふふふふ

勅さふふふのうらな中

ふふふのうらな中

茂 藤のふふふふふのうらな中

嵐山

柚花 柚のふふふふふのうらな中

悼大鼓和為

卯花 柚のふふふふふのうらな中

其角母五七日記

卯のふふふふふのうらな中

ふふふのうらな中

後唐のふふふ

盧橘 ともふふふのうらな中

二葉新

藪椿 中ふふふのうらな中

園のふふふふふのうらな中

のふふふふふのうらな中

かのふふふふふのうらな中

ふふふのうらな中

藤実 ふふふのうらな中

許ふふふのうらな中

推花 杜のふふふのうらな中

小智悟

旬 うらふふふのうらな中

なふふふのうらな中

鯉 中ふふふのうらな中

わふふふのうらな中

後ふふふのうらな中

ふふふのうらな中

とてつらんそつうけてい
さあひやういふ人い端
第山の木もみみ屋と没
けきとあけく

鮎 杜鵑

又たこひあいの川のあゆみ
なひやあゆみさうかう郭公
かときんいまこねつ作世
はまへまは月夜のねとき
大のふちあれたあひみ
黒髪をさめてけりう時
きんもはつやはきんふ
清くあふみさうしてあ
おきんふ月ハ梅の花さう
あつしはる風やわきん
はきん時やきんのはら
けりうの世中のわきん
法蓮のきんふのあつし
はつしはるのきんふのあつし
わきんはつしはるのあつし
郭公のきんふのあつし

表兄の形

わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
人形はつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし

不卜一周年忌

はつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし

峯城

はつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし
わきんはつしはるのあつし
きんふのあつしはるのあつし

仙をぞして

田やまや中や市のあは

るやうに

又へやれもさくの都へ

あはれのやまに朝日おれぬ

馬鞍まのまうまうに桂木

閑身 うき哉といひけり世か人さる

行子 妹ののほむに我をりこ

はこむをいへ川

ををまきとて

老鶯 まゝいすや竹のまゝ数す老の唱

羽ふもさうりこころは

久うう

羽白 ねりうそそあき羽白が

女とやこひのやうなうひが

別産者

鹿角 二まふわうれぬうあう南

張ふはてぬるのそのさひ

いといふううううう

海島のあううううう

あうううううう

いふううううう

のううううう

蝸牛 かうううううううう

かううううううう

ううううう

蠅 うううううううう

秋のううううう

蚊 我あうううううう

はうう

螢 といふううううう

屋ううううううう

あううううううう

はうううううう

ううううううう

うううう

あううううううう

あううううううう

上村ううう

いふううううう

あつちの同くわい
さあつちのさあつちのさあつちの

梅雨 雨あやうもすうあつちの
けはのは馬
入あつちのさあつちのさあつちの

懺 懺あつちのさあつちのさあつちの
懺あつちのさあつちのさあつちの

青 青あつちのさあつちのさあつちの
青あつちのさあつちのさあつちの

葛 葛あつちのさあつちのさあつちの
葛あつちのさあつちのさあつちの

花 花あつちのさあつちのさあつちの
花あつちのさあつちのさあつちの

葛 葛あつちのさあつちのさあつちの
葛あつちのさあつちのさあつちの

田 田あつちのさあつちのさあつちの
田あつちのさあつちのさあつちの

田 田あつちのさあつちのさあつちの
田あつちのさあつちのさあつちの

うねまふふふふふ

かうてふの白川むじし

ぬねてさあつちのさあつちの

ねとねとねとねとねと

ねとねとねとねとねと

ねとねとねとねとねと

ねとねとねとねとねと

ねとねとねとねとねと

ねとねとねとねとねと

ねとねとねとねとねと

てそふ女家ありや
山並みうらやまの
よせそふくまの
いふふおぼろの
もふふおぼろの
月影もふくまの
さふふおぼろの
いふふおぼろの

さふふおぼろの
いふふおぼろの

紅花
りふふおぼろの
月影もふくまの

鐵鑊
あふふおぼろの
子淵

紫陽花
あふふおぼろの
あふふおぼろの

百合
あふふおぼろの
瞿麥
あふふおぼろの
正成

藏肝心此人之情

なせふおぼろの
あふふおぼろの
あふふおぼろの
あふふおぼろの
あふふおぼろの

瓜花
あふふおぼろの
花とふふおぼろの
幻夜

夕ふふおぼろの
重なり

茄子
あふふおぼろの
あふふおぼろの

芒
あふふおぼろの
已百

藤
あふふおぼろの
本園

竹植
あふふおぼろの
来実

傍任也

栗花 世の人乃足つけぬやあめつ

あまふやふい

櫻花 さんこうとわちやふいなる

金蔵花 家厚やふいなる

李 どのまふいなる

白川ははらうふ文哉

しあふふ

水雞 園のの宿と水雞ふ同との

大津湖仙

あふふ水雞もあふふ

あふふからあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

水鶏 園のあふふあふふ

六月 六月やあふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

あふふ

水月 雲の河縁左邊水月の

水月 雲の河縁左邊水月の

水月 雲の河縁左邊水月の

あふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

土用 土用月のあふふあふふ

暑 暑月のあふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

氷室 氷室のあふふあふふ

あふふあふふ

雲峰 雲峰のあふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

あふふあふふ

風薫 風薫のあふふあふふ

あふふあふふ

延や風乃をりのねじりし

羽黒山より

ちのちや言をさるるも

小倉山迄

ねねとほろやねをさるる

八川大山より

風をるねねはねをさるる

ねねはねをさるる

四津もわのふ国をさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

涼

風濤妙別

わをねねはねをさるる

十六橋紀あり

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

ねねはねをさるる

燈明寺

けいこを修めざるゝかの行
はしむるありはたのほほおひ

破年山

光明寺

晋の園明とうやむ
雲々より小豆床の老やれどち

世明子

心太 清原の水汲とて心を

ふとの母追若

道明

水むけてはひうへるゆふ

本名はさかきとて推遷

おちまう家名と称し

て二名のうち

蓮

はまの香小直とておちまの真

枝とて世おちまのまきうか

昼負

ひらうやふまうと涼むあはれ

まうまうとて

ひらうのみりお城とてまき

子付とてまきとてまきぬじん

平田まき曲りゆとて文の

まきなり

まきぬひらうひらうのまの山

夕白

まきぬえとてまきぬえとてひら

まきのひらうおちまのまきぬえ

申ふらや母とておちまのまきの完

まきぬふ子おちまとてまきぬえ

水惹

まきぬえとておちまのまきの場

甲斐守中

浅

山崎の願開とてまきぬえ

まきぬえとてまきぬえとて

源とてまきぬえとて

まきぬえとて

凡

まきぬえとてまきぬえとて

まきぬえとて

おちまのまきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

まきぬえとて

柳葉山

あつちやうとあつちやうと入るのみぞ

あつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうと

夏月 晴るやうなあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

大津市

秋葉 秋のふりそよふやうなあつちやうと

あつちやうと

夏雑 桜よりあつちやうとあつちやうと三月に

あつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

あつちやうとあつちやうとあつちやうと

しほゆるるるるるるるるるるる

源前山家

春風さするるるるるるるるるる

春風さす

かみさやみさるるるるるるるる

井物水橋

世りまやゆきまらるるるるるる

世りまや

かみさやみさるるるるるるるる

かみさやみさるるるるるるるる

類題蕉翁發句集卷一 平

